

農業現場の現状について

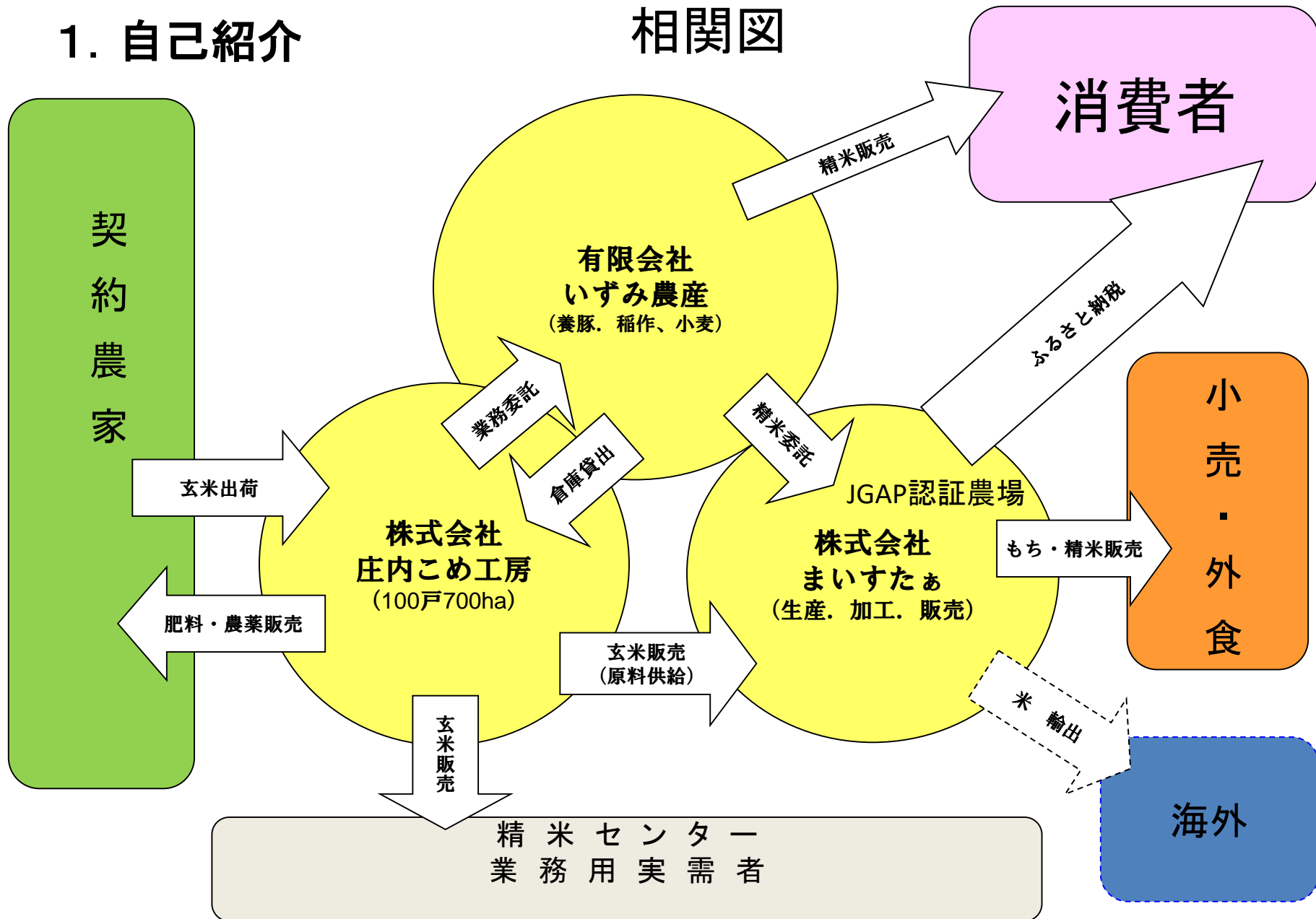
農業分野におけるオープンAPI
整備に向けた検討会

令和2年8月6日

株式会社 まいすたあ
代表取締役 齋藤一志

1. 自己紹介

相関図



2. 農業現場のデジタルデータと先端技術

- ・ 利用目的 収量増大、人件費の削減、作業の軽減
- ・ 使用技術

レーザーレベラー	圃場均平による増収
GPS自動操舵	乾田直播の直進播種 (FM750)
アグリノート	営農支援ソフト (ベジタリア連携)
水田センサー	水位監視 (ベジタリア、ぶらんこ)
ドローン	播種、施肥、防除、撮影
- ・ 今後導入

収量コンバイン	作業低減	ニューホランドTC5.80
可変施肥ブロキャス	増収	クーン アクシス40.2 ニコントリンブルFM1050
- ・ 欲しい技術 追肥作業の確立 (ドローン散布、流し込み、ブロキャス)

3. 一つの事例

本格的基盤整備まで待てないため、30a圃場7枚を畦抜き整備



時速8kmで作業



レーザーレベラーで均平作業



高速汎用播種機にて直播
ニコトリンブルFM750
RTKGPS自動操舵システム利用

水田センサーと気象センサー の設置



ドローンによる追肥、基幹防除

専門業者によるNDVIカメラ撮影分析
による可変施肥実施

一発肥料が気象変動により適切な肥効
が出ないため、流し込み追肥とドローン
による局所追肥に移行



4.余談ですが・・・

※草刈り作業がコメ作りで一番過酷な作業

草刈り作業

4t バックホー

油圧ハンマーモア

トラクター 85PS

オフセットシュレダー

イタリア製

その他

ウイングモア

スパイダーモア

背負い草刈機使用

ロボット草刈りロボットが欲しい

